

17 みち普請

Road
Construction

2014年12月発行

編集・発行
北のみち普請を育てる会
(一般財団法人北海道道路管理技術センター)
〒060-0807
札幌市北区北7条西2丁目20番地
東京建物札幌ビル6階
TEL(011)736-8577 FAX(011)736-8578

●「みち普請」とは、地域の人達が行政といっしょに地域にふさわしい道づくり(管理・運営・利用等)への活動を行うことです。



目次

平成26年 北のみち普請ワークショップ in 鹿追 花と自然の町 鹿追の将来を語ろう!

| | |
|------------------------------------|----------------------|
| ❖開会のあいさつ | 2 |
| 「北のみち普請ワークショップ in 鹿追」 実行委員長 窪田 秀俊氏 | |
| ❖歓迎のあいさつ | 2 |
| 鹿追町長 吉田 弘志氏 | |
| ❖話題提供「花と自然の町の新たな一歩へのヒント」 | 3 |
| 北のみち普請を育てる会 会長 小林 英嗣氏 | |
| ❖「北のみち普請ワークショップ in 鹿追」参加団体 | 4 |
| ❖「北のみち普請ワークショップ in 鹿追」各グループ発表 | 5 |
| コーディネーター 北のみち普請を育てる会 委員 泉谷 清氏 | |
| 発表者 | |
| とんちゃんチーム | 北海道ツーリズム協会 武田 耕次氏 |
| きつねさんチーム | ピュアモルトクラブ 勇 慎一氏 |
| くまさんチーム | JA鹿追町青年部 高橋 宏輔氏 |
| ふくろうさんチーム | 鹿追町農村青年会 植田 憲明氏 |
| うしさんチーム | 鹿追高校ボランティア同好会 金谷梅太郎氏 |
| しかさんチーム | バイオガスプラント利用組合 井上 竜一氏 |
| ❖全体講評 | 8 |
| 北のみち普請を育てる会 会長 小林 英嗣氏 | |

北のみち普請ワークショップ in 鹿追 花と自然の町 鹿追の将来を語ろう!

日時：平成26年10月22日(水)
18:00~20:00
場所：鹿追町民ホール

主催：北のみち普請ワークショップ in 鹿追 実行委員会
共催：北のみち普請を育てる会

開会のあいさつ



今日は「北のみち普請ワークショップ」にご参加をいただき、主催者を代表して御礼申し上げます。鹿追町において様々な社会貢献活動をされています18団体の皆さま、行政・自治体関係者の皆さまに、時節柄大変ご多忙の中、お集まりいただきました。

「北のみち普請ワークショップ in 鹿追」

実行委員長 **窪田 秀俊氏**

〔鹿追町「花と芝生の町づくり」推進協議会会長〕

振り返りますと、平成16年に一度、鹿追町でこのようなワークショップを開いております。またその年に、「全国花のまちづくり国土大臣賞」を受賞し、国土交通大臣より表彰されております。それ以来10年が経ち、私ども実行委員会が「北のみち普請を育てる会」と共催という形で、今回の開催となりました。

このワークショップを通じて、皆さまと連携をしていながら、魅力ある鹿追町をこれからさらに発展させていきたいと考えております。多様な活動の経験をもとにした様々なご意見をいただき、これからの活動に役立つことを期待いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はご参加をいただき、ありがとうございます。

歓迎のあいさつ

鹿追町長 **吉田 弘志氏**

今日の催しは、「平成26年 北のみち普請ワークショップ in 鹿追 花と自然の町 鹿追の将来を語ろう!」という、素晴らしいタイトルです。まず、地元の町長として各団体とご来賓の皆さまに、心よりご歓迎を申し上げます。

10年前にここ鹿追で、1回目のワークショップが開催されました。その後、小林先生のもと、全道でこれまでもずっと続けられ、再びこの町でこういう会ができることを大変嬉しく思っております。普段、道路を空気のように当たり前感じて使っているのが、現状ではないかと思いますがこうしたインフラがしっかり整備され、それを地域の皆さま方の温かい心をもって、道路清掃のボランティアなどを通じ、少しでもよい環境で使おうと生活することが極めて重要だと思います。



今日のこうした集いの中で、道路の重要性を改めて考える機会ができ、大変嬉しく思っておりますし、素晴らしい会になると確信をし、歓迎を申し上げて、ご挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございます。

話題提供 「花と自然の町の新たな一歩へのヒント」



北のみち普請を育てる会

会長 **小林 英嗣**氏

〔北海道大学名誉教授〕

原風景を再現しているカナダ

皆さんのワークショップのちょっとしたヒントになればと思い、いくつかのことを申し上げます。まず今年9月にカナダで撮影した写真をお見せします。

一つ目はカナダで鉱山を経営して財を成したブッチャートさんという方が、自分の敷地と鉱山跡をうまく利用しながら、造っている庭です。これは市民の方もメンテナンスを含めて参加しており、いつも観光客がたくさん来ています。

次の写真はケベックのほうですが、もう一回本当のネイティブな風景というのを造りましょうというので、種から育てながら、いわゆる昔のカナダの原野風景を造りだしているところです。後ろにあるのは古い駅を改修して造った、いわゆるコミュニティ施設です。次の写真の奥に見えるのがカナダの原住民系の建築家がデザインした建物です。昔はこういう大地の中で自分たちは生きてきた、というのを再生しているランドスケープです。

もう一つ、この写真は農家が自分たちで作物をきれいに見せながら美味しく食べられますよというメッセージを出しながら、人をワクワクさせるというレストランです。色のレイアウトなど非常にきれいです。たとえば道の駅でも、ひと工夫、ふた工夫するとこんなに魅力的な野菜の色と花の色、そして「おもてなしの気持ち」というのが出てくると感じます。



100年かけて何を残すか

国土交通大臣から表彰され、10年経ちました。今日改めて伺うと、まちはきれいになって、皆さんの気持ちがまちの姿に表れております。皆さんが今の鹿追の景観をつくってきたんだ、というのを実感できました。

鹿追町が出来てそろそろ100年です。いま100年かけて一体何を残そうとするのか。あるいは次の100年の世代

の人たちに、何を負託しようとするのかを考える必要があると思います。代に代を重ねていって変革と風格のあるまち、そういう方向性が若い人たちも含めて仕組まれてつづいてくると思います。ですから、遠く将来を考えながら、「鹿追らしい変革と風格のあるまちをつくっていきましょう」というメッセージを、子供たちに伝えるのも大事なことです。

地域の資源はすぐお金に換えられることだけではなく、先ほどの写真のように日常的に市民・町民の方が暮らしている風景、それを生活景と言いますが生活景が豊かであることが、非常に重要な地域資源なわけです。野菜をレイアウトしながらレストランに来る人にメッセージを出しているのも生活景です。生活に根ざした景観を再発見する、あるいは発明する、これを生活景というふうに考えましょう。

そうすると、住民の皆さんが共通に持ち始めている意識をベースにしながら、さらに新しい価値というのをどうやってつくってあげようか。たぶんこのことを皆さんは普段考えながら活動されているのではないかと思います。ですから、こうして各団体が年に一度か二度集まって、新たな価値というのは何だろうかとお互い考え方を共有するのも非常に大事です。

地域の力というのがこれから大事になってきます。3年半前の東北の地震と津波の大災害のときも、やはり大事だと実感したと思いますしそれを支える絆というのも大事だということを、日本人全員が共通に感じたわけです。地域の力というのは、皆さんのように汗をかきながら、多少涙を流しながら活動されている方の数と、こういうふうにしようという気持ち、そのモチベーションの掛け算ではないかと思います。ですから活動する方の数を増やすこと、モチベーションを増やすこと、その両方が地域の力を増やしていく。地域の力というのは、何かがあったときに動ける力と考えましょう。

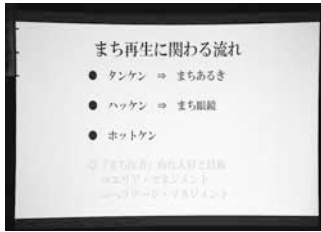


「探検・発見・ほっとけん」

まちをどんどん良くして、再生していく必要があります

す。皆さんがモチベーションを共有するために、まちをみんなでよく歩きましょう。「探検・発見・ほっとけん」とよく言いますが、探検というのはみんなで歩きながら気づいたことを共有しましょうと。そうするとこうしたほうがいよね、あるいはこのような考え方が望ましいよね、なんていうキラッと光るようなものが見つかるわけです。そうしたアイデアとか考え方、行動をお互い評価しながらすると、「よし、こんなことでやろうよ」というように、みんなウズウズし始めるわけです。

ですから、「探検・発見・ほっとけん」をずっと繰り返していくことだと思います。そうすると皆さんの仲間、若い世代の人たち、つまり町医者的な人たちがたくさんいるということ、あるいはそういう人たちが育っていくということにつながるのではないかと思います。



これを最近の行政用語で言うと「エリアマネジメント」と言ったりするわけですがけれども、分かり易く私なりに考えると、「探検・発見・ほっとけん」というのを、いつも頭のどこかに置きながら、朝起きて寝るまで町を考えている人、それがエリアマネジメントを担う人なんだろうなと思うんです。

「ほっとけん」を生み出す、あるいは確認する場所も必要だと思います。それがこういう場所であるかもしれない。あるいは小学校のPTAのミーティング、あるいは商工会のミーティングかもしれません。こういうプラットフォームを、ここ鹿追の中でつくり出すということも大事です。

私たち「北のみち普請を育てる会」では、「わ」ということをよく言います。平和の「和」ですね。周りの人との調和、あるいは和合、そういうような意味もあるでしょうし、われという意味での「我」もあります。つま

り自分自身が何か気づいたり、何か発見したり、行動する。そして会話の「話」。皆さんで集まったプラットフォームで、よくみんなで話すこと、話そうというのも「わ」です。それから環境をうまく活用するというのも「環」でしょう。それから必ずたくさん人が集まると方向が多様になります、たくさんの方向性になります。それをうまく結びつけながらやるという「輪」もあります。それ以外の「わ」にも皆さんお気づきになっていると思います。こういう「わ」が日常的に出来る、というのがこれからの地域がイキイキとなっていく大事なプロセス、行動ではないかなと思います。



町づくりというのは、単にモノをつくることではなくて、将来これからどうしようかなというふうを考える、皆さんそれぞれ考えている物語をみんなで分かち合うことだと思います。物語をみんなで考える。鹿追らしい物語、鹿追しか考えられない物語、東京ではない、あるいは九州ではない、札幌ではない、鹿追の物語というのを皆さんで考えてほしいと期待しています。

ずっと続けていくと、「魅力」というおまげが必ず付いてきます。この「魅力」が子供たち、あるいは周りの人たちを元気にさせると思います。表彰から10年経ちました。これから10年、その間に100年の節目を鹿追町は迎えるわけですが、そういうことを頭に置きながらずっと続けるということを期待したいと思います。こうしたことをぜひこれからの時間の中で、皆さんに共有していただければ、あるいは発見していただければ、あるいは発明していただければありがたいと思います。



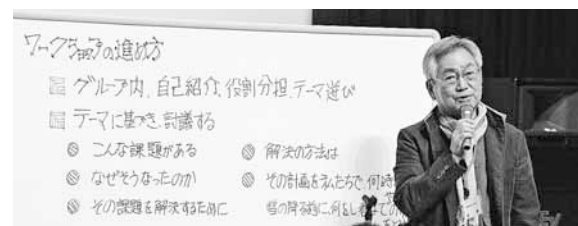
こうしたことをぜひこれからの時間の中で、皆さんに共有していただければ、あるいは発見していただければ、あるいは発明していただければありがたいと思います。

ワークショップ参加団体一覧

協同組合アートロード商店街
JA鹿追町 青年部
鹿追高校ボランティア同好会
鹿追町環境推進協力会
鹿追町観光協会
鹿追町商工会 女性部
鹿追町商工会 青年部
鹿追町農村青年会
鹿追町「花と芝生の町づくり」推進協議会
鹿追町フラワーロード推進協議会
シーニックバイウェイ北海道 十勝平野・山麓ルート
通明クラブ
とかち鹿追ジオパーク推進協議会

*ワークショップは、各団体から1～数名が参加し、6グループに分かれて協議を行いました。その内容を5～7ページに紹介しています。

バイオガスプラント利用組合
ピュアモルトクラブ
フラワーマスター鹿追地区連絡協議会
北海道ツーリズム協会
陸上自衛隊鹿追駐屯地



コーディネーター 泉谷 清氏

ワークショップグループからの発表

✿ とんちゃんチーム



発表者 武田 耕次氏

私たちは「組織を越えた人と人との交流をどのように作り育てていくか」というテーマを選びました。実は色々な活動をやっていても同じ人ばかりで、もっと横の人のつながりを広げたい、という

意識があります。今は個人の活動が中心になっている、あるいは団体に属さない人が増えてきている。また年齢の開きがあつてなかなか話が合わない。それを越えて横に広げるにはどうしたらいいか、色々考えました。

やはり、楽しいことが大事だ、あるいは知ると楽しくなるねということになりました。そのために、楽しい催しやイベントをしてはどうか。会に入っていない人がいるからそういう人たちを誘うと特典があるよ、この会に入っていれば、このイベントに参加すれば、まちで挨拶が気軽に出来るよ、といったことが出されました。でも、そのためにはイベントのリーダー、言いたしっぺが

必要です。

リーダーを育てるのは難しいが、解決方法がたった一つあると気がつきました。それが実はピュアモルトクラブです。そこに約200名の青年たちが集まり、色々なこれまでの活動のネットワークになっています。

ピュアモルトクラブは20年ぐらいずっとやっているのので、そこを早く卒業した人をそのまま放っておくわけにはいかない。今度、「成年部」というのを作ってその人たちに集まってもらったらどうか。そして、その成年部のリーダーに、イベントを呼びかける人になってもらう。

それが解決の大事なところではないかということになりました。その人たちに色々知恵を借りて、あるいは彼らはいろいろな経験を積んでいるし、人の横のつながりも深いので、組織を越えた交流も可能にできると思います。



✿ きつねさんチーム



発表者 勇 慎一氏

我々は「花と自然の町 鹿追町の未来を語る」というテーマで話し合い、三つの課題が出されました。まず一つは、人数など人員の減少、公営化、後継者不足。二つ目は、若い人が花に興味がない、と

いうこと。三つ目は、花と自然の町である、ということをもっと自覚するべきではないか、ということです。

人員がなぜ減ったのか。花に触れる機会が少ない、あくまでビジネスとして花を育てている、など色々な原因があります。解決方法としては、仲間を増やす働きかけであったり、小さいときから自然との関わりを持たせるとそういう職業に就いたり、興味を持つ人が増えてくると考えました。

次に、どうして花に興味がないのか。やはり子供のころから花に接していないのだろうと。解決方法として、歩いて町中を一周できる色々なコースを作ってみよう

か小・中・高校にもっと大きな花壇を造ろうと。花を育てる楽しさを我々自身が子供たちにどんどん伝えていけば、興味を持ってくれるということです。

最後に気持ちの問題ですが、もっと花と自然の町の経済・観光などへの効果を自覚すべきです。が、なぜその逆になってしまったのかというと、交流の場が少ない、取り組みにオリジナリティがない、というようなことが挙げられました。

解決方法としては、花で人を集める、もっともっと多くの「花を媒体として人を集める」ような、何かしらのことをする。オリジナリティを出すために、鹿追町の独自の花を造ってしまえばいいのではないかと、また、海外に持ち帰れるような花を鹿追で育ててみるのはどうかというアイデアなどが出しました。



✿ くまさんチーム



発表者 高橋 宏輔氏

我々はテーマを「鹿追町の魅力をどう発信するか」にしました。まず鹿追町の魅力は、然別湖や扇ヶ原から見える風景。農業でいえば畑作。ジャガイモ、小麦、てん菜、そして鹿追牛ですね。

一方、課題はたくさん出てきました。地域の中に魅力が浸透していない、魅力によって発信する方法が異なるのにそうならない。発信はしているが関係ない、と思ってしまう。情報に食いつかない。しっかりと花をきれいに飾るにも、ホームページやパンフレットを作るにも、すべてお金が必要だが、資金繰りが難しい。高齢化による人員不足も課題になっています。後継者不足により、農家数が非常に減少しており、なかなか投資に踏み切れない農家が非常に多いと思います。

解決案はまともではありません。状況を変えるには、魅力や課題を含めて解決に向けて話し合う必要があります。

す。発信するためには、たとえば観光客や移住者、新規就労者を受け入れる体制の整備も必要になります。そのため、受け入れる覚悟を持った人の育成も必要です。

僕は農業者の立場なので、どうしても農業を語ることが多いのですが、10年後の鹿追町を考えたときに、農業情勢はなかなか良いように進まないのではないかと考えています。それをどう維持していくかというのは、僕ら若い世代が考えなければいけない課題です。

町やJAと課題を共有して、僕らが一生懸命考えないとこの町の農業はなかなか進展していかないかなと思っています。ちょっとまともでないのですが、以上で終わります。



✿ ふくろうさんチーム



発表者 植田 憲明氏

私たちは「組織を越えた人と人との交流をどのように作り育てていくか」という題材に関して討議しました。まず話し合いにあたって、どうしてこのテーマが大切なのかを話し合いました。そこで

出てきたのは、ある一定の組織や団体の中だけで話していると町づくりをしていく上で偏った考え方になってしまう、また他団体や世代との交流が不足していると組織を継続して運営する上で世代交代ができない、という意見でした。

どんな課題があるのか。まず世代交代ができない、そもそも興味が無い、また、交流の時間帯が合わない。たとえば私は畑作農家で夏は昼間ずっと仕事で夜も遅く、冬にこういうイベントに参加しています。それとは反対にたとえば町内で飲食店をされている方ですと、夜が忙しい、などがあります。

こうしたことを解決していくにあたって、まず交流会を企画してはどうか。いきなりやるのではなく、そのために各団体の代表が話し合って、お互いのイベントや会議に呼んで話し合う。それから子供に参加してもらう、ということが大事です。若者のモチベーションがないとか、イベントに積極的に参加してもらえない、という現状があり、それを改善するためにより若い年代から町に対して興味を持つ機会をたくさん持ってもらうことが大事ではないかという意見がありました。

時間が足りず、解決策はあまり話し合えなかったのですが、子供に参加してもらう以外には声掛けをすることです。自分たちが知っている一人ひとりに声を掛け、こういう活動やイベントを知ってもらい、参加してもらっていくのが大事なのではないかと思っています。

こんな感じで終わらせていただきます。ありがとうございます。



✿ うしさんチーム



発表者 金谷 梅太郎氏

私たちは「鹿追町の魅力をどう発信するか」について、自然、町や食文化、教育という三つのテーマに分けて討議しました。まず鹿追町は自然に大変恵まれ、町民が慣れてしまっ

ていて、その魅力に気づいていないのではないか、という意見がありました。町や食文化については、おいしいものが多すぎて一つに絞りこめないのが弱みかなと。たとえば氷室にジャガイモを置いて甘くおいしくなったのをブランド化するか、最近のB級グルメのように食材を使って何か一つの料理を提供できれば町の知名度にもつながっていく、という話が出ました。

教育ですが、私は鹿追高校に今年の4月から勤務していますが小・中・高一貫教育はすごい、という個人的な感想を持っています。生徒が英語を話す場面を見ると町内から進学してきた子供たちの発音が抜群に良く、一貫

教育の成果が非常に出ています。これも鹿追町の魅力を発信する上でつながってきます。

最終的な課題として、魅力をどう発信するのですが、自然の魅力をうまく発信して、まず鹿追町に来てもらう。来た人たちに、この町の魅力や食の魅力を味わって知っていただく。そして最終的に住んでもらい、子供たちを育ててもらう。鹿追にはこうした教育、こうした取り組みをしていますよ、という強みがあります。

こういう結びつきが出きたらいい、と思います。人自体も媒体なので、インターネットを含めいろいろな情報手段がある中で、町民自身がPRすれば連携がうまくいく、という話もありました。花やこうしたイベントをきっかけにまず鹿追町に来てもらう、知ってもらう、住んでもらう、育ててもらう、という連携ができたという話し合いになりました。

こういう結びつきが出きたらいい、と思います。人自体も媒体なので、インターネットを含めいろいろな情報手段がある中で、町民自身がPRすれば連携がうまくいく、という話もありました。花やこうしたイベントをきっかけにまず鹿追町に来てもらう、知ってもらう、住んでもらう、育ててもらう、という連携ができたという話し合いになりました。



✿ しかさんチーム



発表者 井上 竜一氏

私たちは「組織を越えた人と人との交流をどのように作り育てていくか」のテーマを選び、討議し、まず次の三つの問題が挙げられました。一点目は、他の組織・団体への関わり方がわからない、

です。二点目は、それぞれの団体で活動している方の高齢化が進んでいること。三点目は、活動が一部の人に限られてしまっていることです。

なぜそうなってしまっているのか。まず交流の場がないということです。作る余裕がない、肉体的・精神的に、仕事で疲れてしまってそこまでやる気力がない、という意見が挙げられました。また、昔と比べて情報があふれており、花を見ただけでパソコンで検索できますし、テレビでも様々な情報が流れている。結果として、周りの人に話を聞く必要がない。相談する機会が大きく減ってしまっているのではないかと、このように感じました。また、交流の場というところで鹿追町100周年に向けて、今後どのような町にしていきたいのか、を本気で直接話し合う場を設ける、子供から大人まで意見交換ができる機会を頻りに作っていく、こういうワークショップみたいな場を数多く設ける、ことが大事はないかということでもとまりました。

らに、核家族化の進行とともに家族で家にも子供はゲーム、お父さんはお酒と、家族内で関係が希薄になっている、ということが挙げられました。

解決のために、一つはそれぞれの団体同士の交流の場を意図的に設ける、そしてその活動によって得られる喜び、魅力を伝えることで、参加者を増やす必要があります。もう一点が、そもそもどんな団体があるかを広報する必要があります。さらに、若者・子供の育成が非常に重要になってくると思います。

どのようにしてやるかですが、まず全ての団体をまとめて広報する必要がある、と感じました。また、交流の場というところで鹿追町100周年に向けて、今後どのような町にしていきたいのか、を本気で直接話し合う場を設ける、子供から大人まで意見交換ができる機会を頻りに作っていく、こういうワークショップみたいな場を数多く設ける、ことが大事はないかということでもとまりました。





全体講評

北のみち普請を育てる会

会長 **小林 英嗣氏**

〔北海道大学名誉教授〕

長い時間ご苦労さまでした。

僕の昔から付き合いしている友人で早くに亡くなった人がいます。彼がよく言っていたのは「お金と命は、使い切らないとダメだ」と。つまり、天国に持っていけないんです。子供に渡す、という人もいるかも知れませんが、彼のように思っている人達は、このまちにも全国にもたくさんいます。

先ほど、まずここに来ていただいて、見て、食べて、触れ合っただけでその良さを、というふうに提案されたところがありました。そういう魅力を人も場所も、花の美しさも自然も、持っています。ですから、そこに対して天国に持っていけないけれど残していこう、と思っていられる方がたくさんいると思うんです。

たとえば鹿追の高校に周辺からたくさん来て教育を受けたい、というのも教育を受ける環境と、受けた結果良いことがずっと続いているから来るわけです。カナダでもずっと交流を続けていく、そういう魅力があるところに自分を投資する、という人たちがたくさんいると思うんです。

2050年になると、無くなる仕事というのがたくさんあります。別の言い方をすると、新しく仕事生まれるわけ



です。そういう仕事、つまり起業しようとする人たちがうまく支えてあげる場、というのをぜひ皆さんで作っていただけたらありがたいと思います。

半年ぐらい前でしょうか、『WOOD JOB!〜神去なあな日常〜』という映画が公開されました。和歌山の森林組合を舞台にした映画です。都会の浪人生が和歌山の森林組合に来て半年か1年研修を受けて、結局そこに居つくんです。つまり、自分の生き様をそこで見つけるわけです。それに対して森林組合の人たちを含めて、彼らの起業を支えるわけです。

だから、鹿追を卒業した子供か、あるいは日本中のどこからかわかりませんが、鹿追の良い環境、おいしいも

の、優しい人の心、それから美しい場所、そこでぜひ起業しませんか、私たちが支えますから、ということ

を、一つの目的にしながらみんなでこういう場、プラットフォームを応援するともう一つの可能性が出てくるのではないかと。組織を越えた交流とか、魅力をどう発信するか、というのは手段です。その目的というのは何なのか。その目的の一つにたとえば起業をサポートする、ということもあると思いつつ話を聞きました。

普請というのは、自分で責任をとって自分の場所をマネジメントするということです。ですから、道路ばかりではなく自分のコミュニティも自分たちでマネジメントしていこう、というのが今、全国で求められています。花というキーワードで鹿追は全国でトップをいっていますから、その価値を自信を持って使いながら、起業サポートをしていただけるとありがたいと思います。

今日、初めて顔を合わせた方もいらっしゃると思います。ぜひこの場をうまく活用して、次のバージョンをいっしょに交流会で飲みながら決めていただくことも大事な、と思っています。

皆さんが成長すると言いますか、次のステップに行く良い情報が、来年には聞けるのではないかと。先ほど100周年の話もありましたが、そのときには住んでいる方の強いメッセージが、若い世代のメッセージが出てくると思いつつ話を聞きました。本当に長い時間、ありがとうございました。

今日は終わりではなくて始まりだ、と皆さんが思っていたらいいと思います。

